



テーマ：自然へ親しみをもち、自ら関わろうとする幼児を育てる

豊島区立池袋幼稚園

テーマの設定理由

本園は園庭での栽培を多く行い、幼児が多様な植物に触れられるよう環境設定に力を入れている。また、隣接する「大明グラウンド」でも小さな生き物とのかかわりを多くもてるよう、週に1度程度の散歩を実施している。今年度は、幼児がより栽培物や小さな生き物に興味をもち、関心を寄せてかかわりを重ねる中で、探究活動へとつなげ、自然への親しみの気持ちを強められるようにしたい。

活動スケジュール

	活動内容	対象クラス・人数
①	野菜を栽培する「土作り・苗植え」	4歳児 12名 5歳児 10名
②	野菜を栽培する「水やり・観察」	4歳児 12名 5歳児 10名
③	野菜を栽培する「収穫・味わう」	4歳児 12名 5歳児 10名
④	野菜を栽培する「表現活動」	5歳児 10名

活動内容① 野菜を栽培する「土作り・苗植え」

環境をデザインする

探求活動の実践

振り返り

●準備したもの・環境設定
・苗(トマト、キュウリ、ナス、ピーマン、スイカなど)、種(ダイコン、ソラマメ、スナップエンドウなど)、土、プランター

●活動内容・子供の様子
・野菜を植えるために、土作りを行った。畑の土を掘っていると、土の中からミミズが何匹も出てきた。教師がミミズがいる土は良い土であることを伝え、「じゃあ、おいしい野菜ができるね」と期待感が高まっていた。また、ミミズへの興味が湧き、図鑑で調べていた。
・苗を植える際は、優しく土の布団を掛けるように伝え、植え終わると「おいしくなあれ」と声をそろえて言う姿が見られた。



●気づき
・野菜の栽培活動から、小さな生き物への興味にもつながった。

活動内容②③④ 野菜を栽培する「水やり・観察」「収穫・味わう」「表現活動」



●準備したもの・環境設定

- ・プランター
- ・土
- ・ブルーシート
- ・腐葉土
- ・支柱
- ・顕微鏡
- ・ライトテーブル

●活動内容・子供の様子

- ・毎日、水やりをしながら観察をしていると、「葉っぱが大きくなっているよ」「お花が咲いてきた！」など、生長の過程を楽しんでいた。
- ・収穫時には、一番おいしそうなものを選び、立派な野菜が収穫できたことの喜びや、これからみんなで食べられる期待感が膨らんでいた。
- ・会食時には、普段は食べられない野菜も、食べてみようかと挑戦する子供が多くいた。
- ・野菜を収穫できた喜びを絵で表現する際には、収穫物の違いを確かめながら自分のお気に入りを選びと選んでいた。



●気づき

- ・夏野菜の栽培では、日ごとにぐんぐんと大きくなっていることに気づき、収穫を心待ちにしながら観察する姿が見られた。日々の変化に驚きや喜びを感じ、教師や友達に伝える様子が見られていた。
- ・「自分たちで育てた野菜」という特別なものだったため、食べてみたい気持ちが強くなったり、よりおいしく感じたりしている様子があった。
- ・ダイコンの描画では、大きさを表そうと画用紙を何枚もつなげて描いていた。



テーマ：自然へ親しみをもち、自ら関わろうとする幼児を育てる

豊島区立池袋幼稚園

テーマの設定理由

本園は園庭での栽培を多く行い、幼児が多様な植物に触れられるよう環境設定に力を入れている。また、隣接する「大明グラウンド」でも小さな生き物とのかかわりを多くもてるよう、週に1度程度の散歩を実施している。今年度は、幼児がより栽培物や小さな生き物に興味をもち、関心を寄せてかかわりを重ねる中で、探究活動へとつなげ、自然への親しみの気持ちを強められるようにしたい。

活動スケジュール

	活動内容	対象クラス・人数
①	イケバスで遠足	4歳児 9名 5歳児 8名
②	再現遊び「水族館を作ろう」	4歳児 9名 5歳児 8名
③	異学年交流	4歳児 9名 5歳児 8名

活動内容①② 水族館を作ろう

環境をデザインする

探求活動の実践

振り返り

●準備したもの・環境設定

- ・ビニールシート
- ・大型積み木
- ・アルミホイル、カラーポリ袋、スズランテープなどの造形用品
- ・マジックペン
- ・ブラックライト
- ・海の生き物の塗り絵

●活動内容・子供の様子

・イケバスに乗り、サンシャイン水族館に遠足へ行った。様々な生き物を見て、「カラフルできれい」「この魚大きいよ」などと口々に言いながら楽しむ様子が見られた。

・翌日、遠足での経験を遊びにつなげられるよう、教師が保育室や廊下、ホールを水族館や海に見えるような環境を設定した。

・4歳児クラスでは、さっそく環境に興味を示し、海の生き物の塗り絵をしたり、クラゲの衣装を作って身につけ、「クラゲくら～」「くらくら～」と言いながらなりきって保育室を散歩したりする姿があった。



●気づき

・4歳児では、初めての遠足で同じものをみる経験をしたことから、学級の友達と共通のイメージをもって遊ぶことができた。海の生き物を空き箱などで作ったり、自分自身が海の生き物になりきったりなど、様々な遊びが出てきた。

活動内容② 水族館を作ろう

環境をデザインする

探求活動の実践

振り返り

●準備したもの・環境設定

- ビニールシート
- 大型積み木
- アルミホイル、カラーポリ袋、スズランテープなどの造形用品
- マジックペン
- ブラックライト
- 海の生き物の塗り絵

●活動内容・子供の様子

●5歳児クラスでは、ホールに作られた水族館の環境に興味をもち、自分たちでさらに本物らしい水族館を作ろうとしていた。アルミホイルでイワシをたくさん作り、イワシの群れを作ったり、ダイバーになって、大きな水槽を掃除したりする姿があった。また、暗くて照明が印象的だったクラゲのトンネルを作りたい子供たちは、ブラックライトを使い、暗い中できれいにクラゲが照らされている空間を作った。

●学級の友達と水族館ごっこを楽しむと、「4歳児の友達を招待したい」という思いが芽生え、招待し、もてなすことを楽しんだ。

●水族館ごっこに招待された4歳児の子供たちは本物の水族館のような環境に喜び、「イワシがいっぱいいる！」と言ったり、ダイバーの道具を借り、水槽の中を掃除させてもらったりと、交流を楽しんでいた。



●気づき

●5歳児クラスでは、「本物らしく作りたい」という思いが大きかった。アルミホイルや絵の具、ブラックライトや巧技台など、魅力的なものが環境に用意されていたことで、意欲的に水族館を作り上げていく様子があった。

●「自然に親しむ」という活動から、異学年交流につながり、その中で友達に優しく思いやりをもって接する姿、その姿を見て憧れの気持ちを抱く姿が見られ、遊びを通して様々な育ちを感じることができた。



テーマ:夢中になって遊ぶ幼児の育成を目指して ～遊具とのかかわり～

豊島区立池袋幼稚園

テーマの設定理由

本園では遊びの中での学びを大切にする“遊びを中心とした保育”を行っている。昨年度に引き続き、幼児が夢中になって遊べるように、幼児の興味関心に合わせた環境の再構成を続け、遊具との関わりを深める環境設定を探っていく。

活動スケジュール

	活動内容	対象クラス・人数
①	なかよしタイムで遊ぼう 「一緒に体を動かして遊ぶ」	4歳児 12名 5歳児 10名
②	なかよしタイムで遊ぼう 「あそびうたコンサートに参加する」	4歳児 9名 5歳児 8名
③	なかよしタイムで遊ぼう 「イメージをもってコース作りを楽しむ」	4歳児 9名 5歳児 9名

活動内容①② なかよしタイムで遊ぼう

環境をデザインする

探求活動の実践

振り返り

●準備したもの・環境設定

- ・マルチ運動遊びセット
- ・巧技台
- ・ビーム
- ・梯子
- ・とび石
- ・マット
- ・イメージを広げられるような教材(お面や、鍋、表示など)

●活動内容・子供の様子

- ・毎週月曜日、金曜日に異学年で体を動かして遊ぶ時間「なかよしタイム」を設定した。リズムを踊ったり、鬼遊びをしたりすることを楽しんだ。
- ・歌や音楽の楽しさを感じられるように、身体表現の専門家を招聘し、「あそびうたコンサート」を開催し、音楽に合わせて歌ったり、踊ったりすることを楽しんだ。



●気づき

- ・毎週の「なかよしタイム」を実施することで、体を動かす楽しさを感じられることはもちろん、異学年での交流の機会が増えたことにより、好きな遊びの中でも一緒に遊ぶ様子が多く見られるようになった。
- ・あそびうたコンサートでは、普段は慣れない環境に行くと萎縮してしまう幼児も、周りの友達や教師が楽しんでいる姿を見ることで、「踊ってみよう」という姿が見られた。

テーマ:夢中になって遊ぶ幼児の育成を目指して
～遊具とのかかわり～

活動内容③ なかよしタイムで遊ぼう

環境をデザインする

探求活動の実践

振り返り

- 準備したもの・環境設定
- ・マルチ運動遊びセット
- ・巧技台
- ・ビーム
- ・梯子
- ・とび石
- ・マット
- ・イメージを広げられるような教材(お面や、鍋、表示など)

- 活動内容・子供の様子
- ・さらに体を動かして遊ぶことの楽しさを感じてほしいという願いから、教師は巧技台やマットなどの用具を組み合わせコースを設定し、子供たちが普段親しんでいるリズムや遊び、季節のイメージを取り入れた活動を展開した。
- ・例えば、カレーパーティー後には、じゃがいもやにんじんのお面を用意し、野菜になりきって転がったり、坂を上って鍋に見立てた場所へジャンプをしたりする動きを取り入れた。自分なりに転がり方を変えたり、どれだけ高くジャンプができるかを挑戦したりしながら遊ぶ姿があった。
- ・何度か教師が作ったコースを楽しむと、5歳児の子供たちが自分たちでコース作りを始め、4歳児の子供たちを招待する姿が見られた。どのようなコースだと4歳児も楽しめるかを設計図を用いて話し合いながら考えて作っていた。
- ・ジャンプ台などでは、できる子供たちが増えていくと、さらに難しいものへと再構成する様子があった。



- 気づき
- ・行事や生活経験と関連付けることで、イメージを膨らませながら主体的に体を動かす姿が見られた。
- ・子供がもつイメージを広げて楽しむことができるようにするためには、視覚的な教材を準備することが大切だということを改めて感じた。